

## 「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学医学部4年 水野 江美

私はこの多文化教養演習を通じて、中国語を学ぶだけでなく、香港の街並み、食べ物などの文化はもちろん、人の特徴、学生生活など3週間生活しなければわからないことを理解することができたと考えている。

私は中国語に関してはこの演習が初めての学習であった。事前語学研修を通じて拼音の読み方、自己紹介の方法、文の構造や街中で目にする単語を学習した。その土台が、香港中文大学での中国語の習得の手助けとなった。そして、大学で第二外国語として中国語を学ぶことと、この演習を通じて中国語を学ぶことでは大きな違いがあるように感じた。それは、この演習に参加している人は香港の文化等や中国語を積極的に学びに来ているということである。そのため、学生一人ひとりの学習意欲が高く、授業中や授業前後の先生とのコミュニケーションの中で一つでも多くのことを学ぼうとするクラスメイトの姿勢が、自分の刺激となった。恵まれた環境で学ぶことの有り難さを再認識した経験となった。このおかげで、中国語を好きになり、学習を継続して、さらに向上させたいと思うようになった。また、先生もとてもフレンドリーで、食堂を案内してもらったり、一緒に飲茶したりと、貴重な経験をさせていただいたことがとても印象に残っている。

香港の文化については、街中の観光や香港中文大学の現地の学生との交流会で学ぶことができた。特に、香港中文大学における学生生活は、来月の9月から香港では新年度ということもあり、日本でいう「新歓」準備に励む学生が多く、日本と香港のその内容の違いを体感した。また、香港中文大学の学生はとても優しく、国際交流に対して緊張していた私であったが、関わる中でその心配は不要であったと実感することができた。この経験は国際交流を通じて文化を学ぶ、自分の自信につながった。

私は4回生であり、来年3月に卒業する予定であるため、大学在学中での留学経験はこれが最初で最後となる。しかし私は、この演習を通じて留学生がどのような心情、思いで留学先に来ているのかを実感し、京大に来る留学生が京大生との関わりで求めているものを学んだ。自分は出発直前まで実習があったこともあり、十分に香港や香港中文大学について調べる余裕がなかった。そのため、何が有名なのか、どのような体験をすべきかなど不明な点が多かった。そのような自分に対して、現地の学生が自分にわからない点について教えてくれたり、実際に一緒に街に出掛けたり、学生生活について意見を交換したりしてくれたことで、自分が京都大学で留学生と関わる時に、どのような関わりが求められているのかを理解することができ、残りの大学生活で留学生と関わる際にこのことを意識しようと考えた。

将来、国際的な活動を視野に入れている中での今回の経験は、異文化への適応につながった。生活をしている中で、日本での自分と香港での自分が違うと気づき、その国の特性に応じた振る舞いをする力が身についたように感じた。そのことが、他の国でも生活していけるという自信につながった。香港と日本、それぞれの国の特徴や人々の性格を肌で体験したことで、国によって自己主張の強さや物事の判断基準を変える必要があると学び、適応できていたように感じる。

総じて、今回の派遣により中国語や香港についての理解度を高めるだけでなく、海外で活動する際の意識や考え方の基礎が身に付き、参加してよかったと心から思っている。